

# 日本のふつうの女性と男性に…

日本人の我を、体内と、結び。日本民族と、結び。地球と、結び。宇宙と、結び。

<http://www.jomaca.join-us.jp/futsuu.pdf>

令和五年如月あづき

ヤマト平民会議 山田 学まなぶ

arigatou@image.ocn.ne.jp

※ヤマトの声の、深みを求め、旧かなづかひを、  
させていただきます。

## 冥想する生活

恋愛。出産。保育。教育。保健。看護。医療。

これらの、高い質を、求む。安い費用を、求む。それが、家庭を守る、基本。わたしは、みなさんとともに、その求めに、協力させていただきます。みなさんからも、愉しいご提案を、歓迎します。

健康の基本は、自然治癒力を、開くことです。

実は、人間、進化が中途半端です。大地に水平だった、背骨を、直立させ、二本の足にて、歩きはじめた。火を、扱ひはじめ、調理も、はじめた。ことばを、発達させ、なにやかや、考へはじめた。

かういふ、新しい生活にて、自然治癒力を、より開いてゆくには、冥想する生活が、必要なのです。冥想する生活を、身につけてこそ、人間は、進化が、完成するのです。

まづ、ひとりひとりが、自身の体内に、注意しあふこと。現代人は、環境からの刺激が、複雑すぎる。素朴な原始人のやう、自身の体内に、注意しあふには、さうする意識が、必要です。

特殊な部屋にて、座禅する訓練も、よいが、じつじつふつうの生活の、四六時中の瞬間瞬間にて、冥想しつつ、生活するのです。体内の〈快〉を、求む。〈無〉は不快が無いを、求む。〈快〉を求むるから、面倒なこともなく、愉しい生活です。生活習慣病を、予防し、また、克服するには、生活習慣を、修正すれば、よろしい。死ぬるまで、生活を修正しつつつけてこそ、自然治癒力が、より開いてゆきます。

生活を、六面から、考へませう。ひとりひとりが、自身の体内に、注意しあひつつ、六面から、考へる。姿勢動作は、これでよいか…。呼吸は、これでよいか…。食事と排泄は、これでよいか…。人間関係、とくに異性関係は、これでよいか…。精神は、これでよいか…。生活環境は、これでよいか…。体内の〈快〉を、求む。〈無〉は不快が無いを、求む。かう求めつつける人が、まだまだ少い、今は、

世間の言説に、でたらめも多いと、氣づくかもしれません。世間の言説を、信ぜず、疑はず、自身にて、是非を確認する。進化を完成する、先駆者たれ…。

からだところろの健康。ところろと社会の平和。まとめて、健康平和と、呼びます。

冥想しつつ、生活することは、〈眞智〉、すなはち、健康平和な、現実の認識、これを、ひとりひとりが、求めつづけたいことです。

あらゆる個人は、〈眞智〉の前に、平等です。

あらゆる民族も、〈眞智〉の前に、平等です。

十七世紀からの、西欧の学問も、残念ながら、少し物理に傾いた、一面です。さてさて、日本のふつうの女性と男性から、さつういふ近代も、超えてゆきませう。

#### 導きの糸

人間の生活にて、苦しみや悩みは、必然なのです。人間は常に、世界の未知の部分に、関心がある。また、人間社会の内部にて、道徳においても、生産においても、学問においても、まだ、協同できてはゐない。

必然の、苦しみや悩みから、逃げさせる教へも、多い。それでは、人間の進化は、完成しません。必然の、苦しみや悩みこそ、導きの糸なのです。あへて、さう、感謝いたします。苦しみや悩みから、逃げず、まともに向きあひつつ、体内の〈快〉を、求む。〈無〉に不快が無いを、求む。苦しみや悩みこそを、導きの糸とし、生活を、六面から、修正しつづける。その時なりに、愉しみや悟りにも、接近する。個人の生活修正から、自然に、社会改善に向ふことも、ありませう。苦しみや悩みと、愉しみや悟りを、くりかへすが、自然な人生…。

#### 自然治癒力

自然治癒力の、正体。それはまづ、全身の、そしてまはりの人との、ミトコンドリアの連関、なのです。ミトコンドリアは、細胞内の細胞であり、体内を動かす素（ATP）を産生するなど、多くの重要な働きをします。細胞の表面にある、糖鎖は、細胞としての、生体防御系です。ミトコンドリアの連関のあり方にも、関与してゐませう。

自然治癒力の次は、常在してゐる、細菌やウイルスの、微細な生態系が、調和してゐること、なのです。腸管（口から肛門まで）の内にて。女性の産道の内にて。全身の皮膚の表面にて。この微細な生態系が、調和してゐてこそ、病原の細菌やウイルスを、防御できるのです。

自然治癒力の最終は、〈酵素活性場〉、これを、強めることなのです。あらゆる生命反応に、介在する、酵素。その酵素の活性に、関与する、場（空間の性質）といふものが、あるのです。わたしたちのもの、〈氣功を工業化する技術〉は、この〈酵

素活性場〈を〉、強めます。縄文人など、原始人は、生きる本能として、このあたりは、〈酵素活性場〉が、強いが、弱いかについて、鋭敏なものでした。

水中にて、嫌気性も、好気性も、あらゆる種類の細菌を、縦横無尽に、働かせた結果としての、水。この、抗酸化力が最強の水も、〈酵素活性場〉を、強めるのです。

アジア診療（中国・インド・チベット・イスラムに伝統の診療）は、自然治癒力を重視する傾向に、あります。化学成分の発見に喜び、DNA・RNAの発見に喜び、計測し制御する、ICＴ素子の発明に喜び、現代医学。それは、残念ながら、自然治癒力を開くといふ、本質が、観えておられないかもしれません。また、石油を利用した薬品にも、とらはれてゐるやうです。

#### ひとつあつたの希望

恋愛。出産。保育。教育。保健。看護。医療。冒頭に記した、これらを、まとめて、〈養生〈と〉呼びませう。今は、残念ながら、〈養生〉や、そのための〈眞智〉（健康平和な、現実の認識）が、軽視される傾向に、あります。一部の方がたの、異常な資産増殖欲が、すべてを支配する。さういふ、資本制人間社会のへ終末〈、だからです。なので、わたしは、日本のふつうの女性と男性に、呼びかけます。〈養生〉の、高い質を、求む。安い費用を、求む。これにおいて、協同する、仲間づくりを！ 戦後日本の、製造業などを起点とする、経済は、断捨離いたしません。〈養生〉と〈眞智〉を起点とする、経済へ、逆転したいところです。一万年以上の、縄文の平和の記憶もある、ヤマトの平民の、仲間づくり。それこそが、今の広い地球にても、ひとすぢの希望、ではないでせうか。とくに、子どもを産み育てる、本能として賢い、女性におつた…。

戦後日本は、冥想しつつ、生活するといふ、道徳の基礎が、空白です。敗戦や、ヒロシマ、ナガサキなどの、衝撃から、さしあたり、GDP増大闘争といふ、目先の「信仰」に、しがみつきました…。それに合せて、整備した、教育体制（保育園から大学院まで）。それも、とても面倒なことでも、一から、組み直す必要も、ありません…。わたしは、東大を中退した者として、やう、感ずるのです。

#### 次の地球

実は、地球人、宇宙において、後進生物であるに、すぎません。UFOや異星人についての情報が、開示されるのは、時間の問題でせう。地球人は、道徳においても、生産においても、学問においても、協同を求め、宇宙に開かれた地球を、めざしたいところです。UFOや異星人を迎えるに、支障となるのが、実は、アインシュタインらの学問なのです。ので、わたしは、〈次の学問〉を、着実に、蓄積してをるところです。

まあ、病的戦争な、現代社会を、自然に、治癒させあひませう。  
生活は、労働と休養の、くりかへしです。

社会は、労働力と、商品と、貨幣を、仲立ちとし、おたがひの生活こそを、生産しあつてゐる。

生活の生産、といふ本質に、帰りたい。おたがひの、健康平和な生活の道、これをこそ、生産しあひたい…。

かのマルクスは、資本制人間社会が、終ることは必然である、さう、論証しました。もしもそのあとに、生産調和体が、出現するなら、民族間の闘争も、富民と貧民の闘争も、消える。だから、それらの闘争を、調整するための、国家といふものも、消える。そのやう、夢をみました。ですから、二十世紀以降の、ソ連や、中共などの、軍事専制国家なんぞは、本来のマルクス思想とは、無縁そのものなのです！ 事実は小説よりも奇なり。

ただし、マルクス自身、夢みてゐた段階に、すぎぬ…。いよいよ、資本制人間社会の〈終末〉と、考へられる今。では、次の地球をどう創ればよいか、なかなか、有力な具体策が、聴えてきません…。実は、マルクス自身、具体策を、まともには、語つてゐないので…。事実は小説よりも奇なり。

ので、わたしは、わが日本社会からこそ、東洋のヨガ(冥想生活)をも、発想の起点としつつ、次の地球をどう創ればよいか、みなさんとともに、具体策を、編み出したい…。

ですから、ここに、日本のふつうの女性と男性に、呼びかけをはじめたしだい、いじります。

ともかく、ひとつずつの希望を、追ひかけあひませんか！

### 創つてゆへ

ヤマトの平民の辞書に、救世主といふことは、ありません。日常の地道な、仲間づくり。健康平和に、生活協力しあふ、仲間づくり。あらゆる個人の、自立と協同。自分を救ふのは、まづ自分であり、次に、仲間の協同が、それを補ひます。

やがては、やがては、あらゆる民族の、自立と協同にも、つながるでせうか。ヤマトの平民の辞書に、革命といふことは、ありません。道徳において、生産において、学問において、協同が発達すれば、政治そのものの必要が、消える…。

ただし、当面は、日本国の自立統治の強化が、必須。日本民族のご皇統史を、敬愛しつつ。

人間社会は、壊さなくとも、すでに壊れはじめてゐる！ 純情なヤマトの平民が、おたがひの進化の完成をめざしつつ、次の地球を、愉しく、創つてゆへべし。